

SANJO ROTARY CLUB

三条ロータリークラブ

2014.5.7 (No.2779) 週報 No.41

第2560地区ガバナー／山崎 堅 輔
会 長／丸山 行 彦
会長エレクト／高橋 司 (クラブ奉仕A)
副 会 長／五十嵐晋三 (クラブ奉仕B)
幹 事／船越 正 夫
S A A／野崎喜一郎
会 計／若槻八十彦

例会日／毎週水曜日 12:30～
例会場及び事務局／
三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店内
例会場／TEL 34-3311
事務局／TEL 35-3477 FAX 32-7095

E-mail : sanjo-rc@cpost.plala.or.jp
http://www.soho-net.ne.jp/~rotary/
(~はshiftを押しながら“へ”のキーを
押してください)

- 本日の出席会員数:55名中37名
- 先々週出席率:90.20%

【ゲスト】

・総合地球環境学研究所
特任准教授 半藤逸樹 様

【先週のメイクアップ】

【4.27】 田上あじさいRC創立20周年式典へ

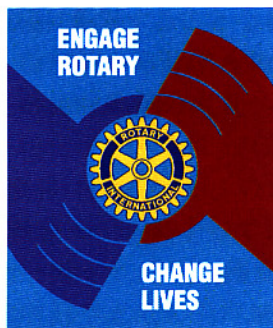
- ・丸山行彦さん、高橋 司さん、
- ・五十嵐晋三さん、杉山幸英さん、
- ・五十嵐昭一さん、会田二郎さん、
- ・石橋育於さん、中村和彦さん、
- ・渡辺良一さん、吉井直樹さん、
- ・衛藤泰男さん (11名)

【5.1】 燕RCへ

- ・小越憲泰さん、加藤紋次郎さん、
- ・関川 博さん、渡辺勝利さん (4名)

【5.2】 三条ローターアクトへ

- ・吉井直樹さん



「ロータリーを实践し みんなに豊かな人生を」
2013～2014年度国際ロータリーのテーマ

「芝桜公園と魚沼三山」



会 長 挨拶

丸山行彦 会長



皆様こんにちは。

半藤様遠い所からようこそいらっしゃいました。後ほど卓話よろしくお願ひ致します。

ゴールデンウィークも終わり、充分休養を取られ、身も心もリフレッシュされたと思います。私は例年通り日曜日以外

は仕事柄休みではありませんでしたが周りが休みの為、大した仕事も無く暇でしたのでゴールデンウィークはのんびり過ごさせて頂きました。

幹事の船越さんが入院されました。しばらく治療が必要とこのことで、幹事役を次年度幹事の野崎さんにお願ひ致しました。野崎さんは現SAAですので、野崎さんの代わりを次年度SAAの松永さんにお願ひ致しました。お二人とも宜しくお願ひ致します。

船越さんへは今日例会後お見舞いに行く予定ですが早く復帰できることを祈っています。

今日は月の初めの例会で行事が多くあるので挨拶は超短くとこの事務局からの指示がありましたので挨拶を終わります。

幹事報告

船越正夫 幹事

◎山崎ガバナー事務所より

「5月ロータリーレートのご案内」

5月1日より 1ドル = 102円 (現行)

◎山崎ガバナー事務所より

「ロータリー山の会のご案内」

開催日 6月14日(土)～15日(日)

場 所 高坪山 (標高:570.5m)

◎三条RACより

「三条マルシェ フリーマーケット出店における
商品提供のお願い」

本日ご案内をお配りいたしました。

収益金は「フィリピン台風被害義援金」として寄
付します。皆様のご協力をお願いいたします。

◎次週 14日(水)は、クラブ休会です。

ニコニコBOX

丸山行彦さん

半藤逸樹様、遠い所おいでいただきましてありが
とうございました。卓話よろしくお願ひ致します。

山田富義さん

今回も大勢の人達にお世話になりました。感謝申
上げます。

歸山 肇さん

先月の 故 父の葬儀には多くの方の御会葬、御焼
香をしていただきまして、誠にありがとうございました。

齋藤弘文さん

山田会員の市議員への当選を心からお祝ひ申し
上げます。

4月12日安倍首相主催の「桜をみる会」に招待され
妻と参列して参りました。

樺山 仁さん

連休も気温も安定し、天気良く穏やかな休みを送
れました。

本日の半藤様の卓話に期待しております。

明田川賢一さん

半藤先生、卓話受けて頂きありがとうございます。

小越憲泰さん

連休中は例年通り栃木でゴルフをやって来ました。
齋藤さんありがとう御座いました。

小出子恵出さん

アツと言う間の連休でした。疲れしました。

佐野勝榮さん

5月3日粟ヶ岳へ登りました。例年より雪が少なく、
天候に恵まれ360°のパノラマでした。皆さんに
もおすすしめします。

荻根澤隆雄さん

薫風香る五月晴れ。良い天気ですね。

吉井直樹さん

本日代理で、SAAを初めて務めさせていただきます。
不手際ありましたら御指導宜しくお願ひします。

菊池 涉さん

連休中、ほとんど何もせずに過ごしました。

渡辺良一さん

GW、振れる関東に行って来ました。孫との楽し
い時間を過ごしました。

半藤様、卓話よろしくお願ひします。

野地貞儀さん

4連休で宮城に帰って来ましたが、途中何度も事
故を見ました。やはり、安全第一ですね!

衛藤泰男さん

本日もよろしくお願ひします。

木村文夫さん

しばらく休みをしていて申し訳ありませんでした。
本日の卓話、楽しみにしております。

川瀬康裕さん、大沼公成さん、金子俊郎さん、

高橋 司さん、若槻八十彦さん、会田二郎さん、

伊藤寛一さん、五十嵐博宣さん、関川 博さん、

中村信一さん、五十嵐昭一さん、杉山幸英さん

半藤逸樹様、本日は卓話ありがとうございます。

お話楽しみにしております。

5月7日分 ¥ 47,000

今年度累計 ¥1,314,100

卓 話

化学汚染(地球環境問題)の解決に資する研究:「化学的不均衡」を乗り越えるために



総合地球環境学研究所(地球研)
特任准教授 半藤逸樹 様

地球環境問題としての化学汚染は、経済発展の代償です。現在、われわれの経済活動は約10万種の化合物を伴っています。主な化学製品の生産国はOECD加盟国からBRICsに移行しています。化学汚染は廃棄物問題(とくに電気電子機器廃棄物)にも密接に関係しており、人間の健康と生態系への深刻な影響を与えています。環境中に排出された人為起源・自然起源の化学物質は、大気・海洋大循環を介して越境環境問題に発展しています。それゆえ環境法や国際条約によって、化学物質を規制するなどの取り組みがあります。そもそも、人間は生物個体として化学汚染には適応できないため、法によって物質を規制するか、環境訴訟によって問題解決を促すことが一般的です。

地球環境研究の最先端では、「地球の限界」という新たなパラダイムが議論されています。これは、気候変動や生物多様性の喪失など、9つの重要な環境問題について、安全に人間活動を行うための領域を、生物地球物理的な閾値によって定め、その不確実性を考慮して越えてはならない「限界」を強く認識するものです。例えば、気候変動の場合、その限界は大気の二酸化炭素濃度で350ppmです。しかし、現実には2009年現在で387ppmに達しており、すでに限界を超えてしまっています。化学汚染は、「地球の限界」の項目の一つには提案されているものの、複合影響評価の知見が乏しいため、統一見解には至っていません。また、化学汚染は「化学的不均衡」の一側面であり、化学物質は多すぎても少なすぎても大なり小なり様々な不利益を人類にもたらすことに注意してください(農薬がなくては、マラリア対策や農作物の収穫に影響することなどを想像してください)。

私は、数年前から化学汚染の統合的リスク評価に着手し、海棲哺乳類の大量へい死イベントと環境中へのポリ塩化ビフェニル(PCBs)暴露量の関係から、「地球の限界(化学汚染)」の定量化を行っています。図1は、数値モデルによってPCBs濃度の暴露量を定量化した一例です。PCBs濃度が相対的に高い海域として、地中海や北欧の沿岸域、米国の東海岸などがあげられます。ハクジラ類やアザラシ類などの海棲哺乳類は、食物網のなかで栄養段階が高く、陸上生物よりも汚染物質の生物濃縮が顕著に起こり、それ

が免疫低下を介して感染症を引き起こす結果になると考えられています。昨年、米国の海軍が、鯨類の大量へい死・座礁イベントへの関与を認めたため、化学汚染と海棲哺乳類の大量へい死イベントの因果関係には慎重な評価が必要になっています。

さて、問題を如何に正しく認識したところで、問題解決のための仕組みがない以上、地球環境問題は解決には向かいません。とくに、化学汚染については、問題となる物質の排出や製造について、法的な規制をかけたり、環境訴訟によって「強者と弱者」あるいは「富裕層と貧困層」の対立の構図を強調するような「性悪説に基づくガバナンス」が主流で、問題の根本的な解決からは遠ざかっているような傾向があります。地球環境問題に対しては、われわれ人類ひとりひとりがステークホルダー(利害関係者)であり、一部の研究者や行政・企業主導のもと、解決案を提案するには限界があります。このような背景の中、不特定多数による(非)合意形成や、サイレント・マジョリティの価値判断を取り込み、多様な価値観を包括する「新しい地球環境観」の形成を促し、「化学物質との付き合い方」を見直すことが重要だと考えるようになりました。

分野間の連携を強める研究者主導の研究を学際研究といいます。学際研究を超え、科学と社会の連携のもと、真に問題解決型の研究を行うことを超学際研究といいます。近年の地球環境研究では、(実態はともかく)後者が重要であるという潮流になっています。問題解決や社会転換のアイデアは、俳優の伊勢谷友介さんが代表を務めるリバースプロジェクトや、「人類資金(原作:福井晴敏)」の理念や世界観にも表れています。私は、様々な立場の人が色んなことをつぶやいているツイッター(Twitter)に注目し、ツイッターと連動して環境観(環境に対する価値観)の地球規模ネットワークを探るためのアプリ「環境観でつながる世界」を共同開発しています(図2)。

現在、私の所属する地球研では、化学的不均衡を対象に、このアプリを使った社会実験を提案しています。【環境問題認識システムの開発と新しい地球環境観の形成—「化学的不均衡」を乗り越えるために】というプロジェクトの予備研究の提案で、研究者に加え、公害資料館の関係者や連合王国の公益弁護士も参画しています。リバースプロジェクトとの連携も模索中で、「人類資金」で語られる「善意のシステム化」や「資本共生主義」の可能性を真剣に検証・提案する予定です。未来可能性(=人と自然の関係のあるべき姿)を探求する中で、「性善説に基づくガバナンス」によって「化学的不均衡」を乗り越えるための方法を提案する超学際研究活動です。

化学汚染のリスク評価



世界初 地球の限界(化学汚染)の定量化に着手 (Handoh and Kawai, 2014)

Modelling exposure of oceanic higher trophic-level consumers to polychlorinated biphenyls: pollution 'hotspots' in relation to mass mortality events of marine mammals. *Marine Pollution bulletin* (in revision)

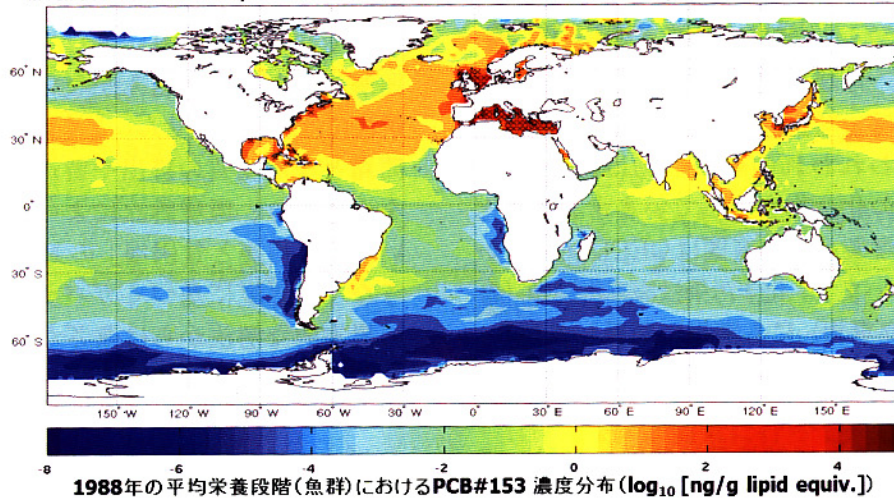


図1 化学汚染の動態解析モデルによるPCB#153暴露量予測の一例。

アプリ「環境観でつながる世界」の共同開発



図2 Google Playに登録されたAndroid用アプリ「環境観でつながる世界」。iOS用アプリもApp Storeで公開予定。

次週例会 5月28日 「外部卓話」
三条市国際交流員 ピーター・カーター 様

次々週例会 6月4日 「ガバナー補佐訪問」
第4分区分ガバナー補佐 鈴木守男 様

